

富山市教育委員会 5 月定例会 資料

令和元年6月補正予算案総括表

[一般会計]

(単位:千円)

款・項・目	当初予算額	6月補正額	計	備考
10 教育費	13,718,688	78,563	13,797,251	
1 教育総務費	1,705,131	1,254	1,706,385	
2 事務局費	1,143,545	254	1,143,799	1 通学区域審議会事務費 254
5 教育センター費	124,897	1,000	125,897	1 適応指導教室運営事務費 1,000
2 小学校費	6,277,730	66,309	6,344,039	
3 学校建設費	2,705,476	66,309	2,771,785	1 学校プール建設事業費 56,309 2 校舎改築事業費 10,000
3 中学校費	2,046,947	11,000	2,057,947	
3 学校建設費	458,124	11,000	469,124	1 校舎改築事業費 11,000

第 2 表 継続費補正

追 加

(単位 千円)

款	項	事業名	総額	年度	年割額
10 教育費	2 小学校費	学校プール建設事業費 (朝日小学校)	140,774	令和元年度	56,309
				令和2年度	84,465

第 4 表 地方債補正

変 更

(単位 千円)

起債の目的	限 度 額			起債の 方 法	利 率	償還の方法
	補正前の額	補 正 額	補正後の額			
小 学 校 費	1,908,600	25,600	1,934,200	普通貸借 又 は 証券発行	% 5.0 以内 (ただし、利率 見直し方式で借 入れる資金につ いて、利率の見 直しを行った後 においては、当 該見直し後の利 率)	借入れ先の融通 条件による。た だし、市財政の 都合により据置 期間及び償還期 限を短縮し、も しくは繰上償還 又は借換えする ことができる。

通学区域審議会事務費

小・中学校の将来のあり方検討事業について

【教育総務課】

1 目的

今後、児童生徒が減少していく現状と課題について、「広報とやま」において市民に周知するとともに、地域の会合に出向いて説明を行い、本市の小・中学校の将来のあり方について、議論を深めてもらうもの。

2 内容

- (1) 「広報とやま」8月5日号特集面で、市全体の児童生徒が減少していく現状と課題について市民に周知
- (2) 富山市自治振興連絡協議会の13ブロック毎に行われる会議をはじめ、PTAの会合等において、児童生徒数の地域毎の現状を説明

3 補正額

254千円

<内訳> 一般財源 254千円

学校プール建設事業費（小学校）

朝日小学校プール改築工事について

【学校施設課】

1 目的

朝日小学校において、プールの改築工事を実施するもの。

2 施設概要

25m×4コース及び附属建屋

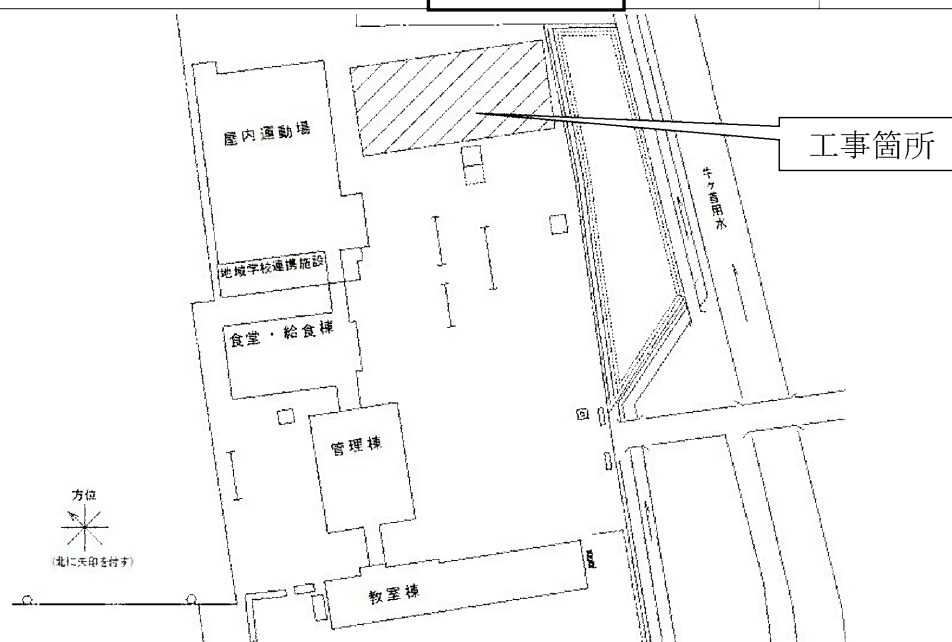
3 補正額

56,309千円

<内訳> 国庫支出金 8,205千円
市債 29,300千円
一般財源 18,804千円

(単位：千円)

事業費内訳	元年度	2年度	計
プール改築工事請負費（継続費）	49,324	73,986	123,310
工事監理業務委託費（継続費）	1,785	2,677	4,462
埋蔵文化財発掘調査業務委託（継続費）	5,040	7,560	12,600
改築工事に伴う事務費（継続費）	160	242	402
計	56,309	84,465	140,774



校舎改築事業費（小・中学校）

小・中学校仮設校舎借上料について

【学校施設課】

1 目的

耐震化が必要な小・中学校校舎について、耐震化工事の早期完了に向けて、仮設校舎の設置を行い、今後の国庫補助の前倒しにも即応できる態勢を整えるもの。

2 内容

(1) 堀川小学校

250,000千円（令和元～6年度 長期継続契約（50か月））

(2) 西部中学校

275,000千円（令和元～6年度 長期継続契約（50か月））

3 補正額

(1) 小学校費 10,000千円（令和2年2月供用開始）

<内訳> 一般財源 10,000千円

(2) 中学校費 11,000千円（令和2年2月供用開始）

<内訳> 一般財源 11,000千円

適応指導教室運営事務費

豊田適応指導教室排煙窓取替業務委託について

【教育センター】

1 目的

教育センターの分室である豊田適応指導教室の排煙窓が、経年劣化により緊急時に支障が生じる恐れがあるため、取り替えるもの。

2 内容

排煙装置一式（排煙窓、ハンドルボックス等）の取り替え

3 補正額

1, 000 千円

<内訳> 一般財源 1, 000 千円

議案第106号

工事請負契約締結の件

岩瀬中学校既存校舎解体工事について、次のとおり請負契約を締結するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第96条第1項第5号の規定により、市議会の議決を求める。

令和元年6月13日提出

富山市長 森 雅 志

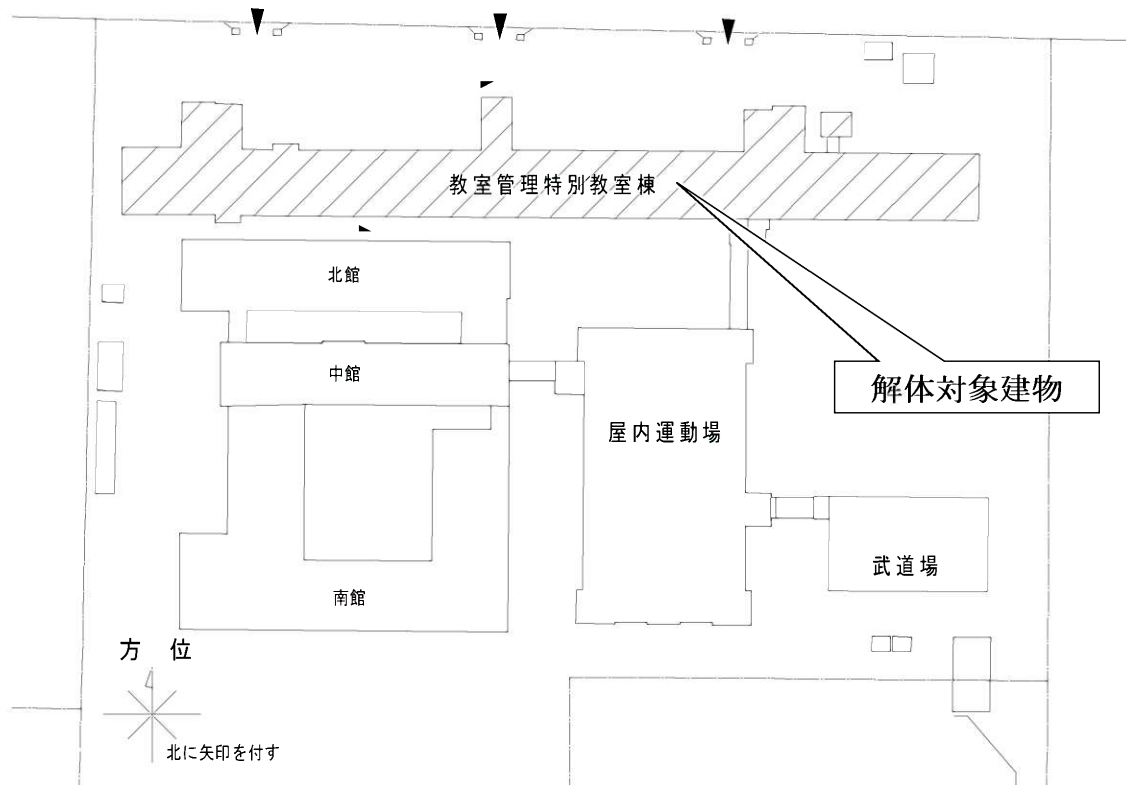
記

- 1 契約の目的 岩瀬中学校既存校舎解体工事
- 2 契約の方法 一般競争入札
- 3 契約の金額 188,595,000円
- 4 契約の相手方 砂原組・共和解体土木岩瀬中学校既存校舎解体工事共同企業体
代表者
富山市山室176番地
株式会社砂原組
代表取締役 砂原 太助

工事請負契約締結の件

岩瀬中学校既存校舎解体工事

【学校施設課】



構 造 : 鉄筋コンクリート造3階建て

延 床 面 積 : 約4,500m²

契 約 の 金 額 : 188,595,000円

工 期 : 契約締結日の翌開庁日 ~ 令和2年1月31日

契 約 の 相 手 方 : 砂原組・共和解体土木岩瀬中学校既存校舎解体工事共同企業体

議案第 107 号

工事請負契約締結の件

奥田北公民館改築主体工事について、次のとおり請負契約を締結するため、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 96 条第 1 項第 5 号の規定により、市議会の議決を求める。

令和元年 6 月 13 日提出

富山市長 森 雅 志

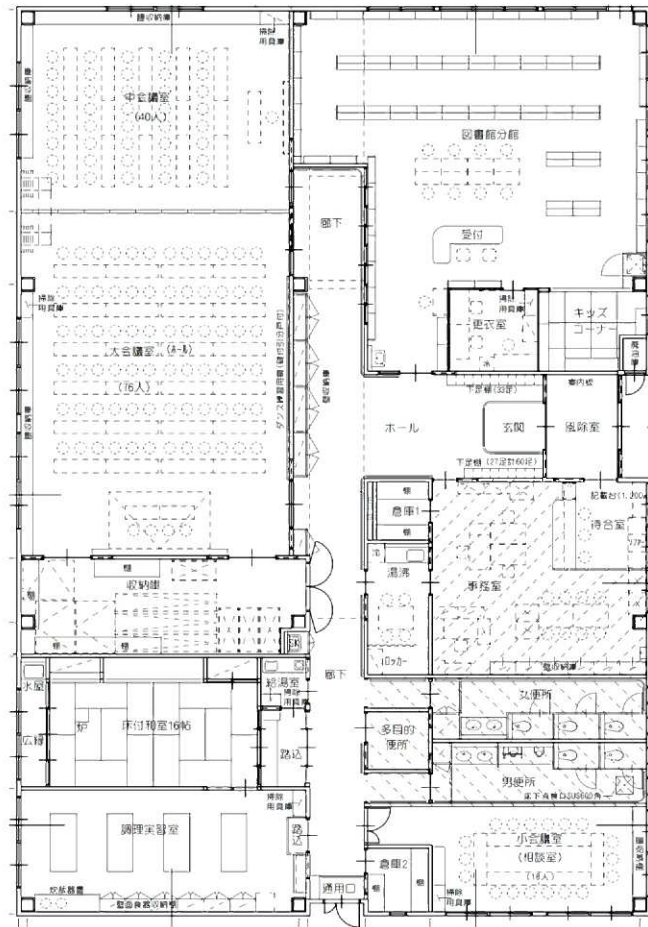
記

- 1 契約の目的 奥田北公民館改築主体工事
- 2 契約の方法 一般競争入札
- 3 契約の金額 275,000,000 円
- 4 契約の相手方 竹原工務店・北新建工奥田北公民館改築主体工事
共同企業体
代表者
富山市下赤江町二丁目 2 番 27 号
株式会社竹原工務店
代表取締役社長 竹原 博幸

工事請負契約締結の件

奥田北公民館改築主体工事

【生涯学習課】



構 造 : 鉄骨造平屋建て

延 床 面 積 : 696.87m²

契 約 の 金 額 : 275,000,000円

工 期 : 契約締結日の翌開庁日 ~ 令和2年10月30日

契 約 の 相 手 方 : 竹原工務店・北新建工奥田北公民館改築主体工事共同企業体

報告第 7 号

平成 30 年度 富山市 継続費繰越計算書

款	項	事業名	継続費 の総額	平成30年度継続費予算現額			支出済 額及び 支出見 込額	残額	翌年度 繰越額	左の財源内訳				
				予算 計上額	前年度 繰越額	計				繰越金	特定財源			
											国(県) 支出金	地方債	その他	
			円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
		大規模改造 事業費 浜黒崎小学校	491, 208,000	147, 362,000		147, 362,000	48, 000,000	99, 362,000	99, 362,000	34, 162,000			65, 200,000	
		大規模改造 事業費 上滝小学校 (その3)	848, 480,000	339, 392,000		339, 392,000	106, 390,000	233, 002,000	233, 002,000	46, 302,000			186, 700,000	
		学校プール 建設事業費 倉垣小学校	119, 468,000	35, 840,000		35, 840,000		35, 840,000	35, 840,000	12, 440,000			23, 400,000	
		校舎改築 事業費 旧五福小学校 解体	525, 400,000	420, 320,000		420, 320,000	169, 980,000	250, 340,000	250, 340,000	148, 440,000			101, 900,000	
		校舎改築 事業費 月岡小学校	560, 941,000	27, 500,000		27, 500,000		27, 500,000	27, 500,000	2, 888,000	2, 012,000		22, 600,000	
		校舎改築 事業費 速星小学校 (その1)	930, 999,000	805, 232,000	81, 568,000	886, 800,000	77, 662,800	809, 137,200	809, 137,200	89, 065,200	139, 372,000		580, 700,000	
		耐震補強 事業費 寒江小学 校	171, 440,000	68, 576,000		68, 576,000	23, 040,000	45, 536,000	45, 536,000	8, 336,000			37, 200,000	
		耐震補強 事業費 水橋西小 学	298, 736,000	119, 494,000		119, 494,000	39, 970,000	79, 524,000	79, 524,000	25, 624,000			53, 900,000	
		耐震補強 事業費 水橋東小 学	182, 798,000	73, 119,000		73, 119,000	26, 480,000	46, 639,000	46, 639,000	10, 739,000			35, 900,000	

款	項	事業名	継続費 の総額	平成30年度継続費予算現額			支出済 額及び 支出見 込額	残額	翌年度 通次 繰越額	左の財源内訳			
				予 算 計上額	前年度 通次 繰越額	計				繰越金	特定財源		
											国(県) 支出金	地方債	その他
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
10教育費	5 社会 教育費	公民館建設 事業費 八尾公民館	510, 950,000	102, 190,000		102, 190,000	33, 200,000	68, 990,000	68, 990,000	23, 890,000		45, 100,000	
		図書館施設 整備事業費 図書館旧本館 解体	483, 000,000	241, 500,000		241, 500,000	77, 430,000	164, 070,000	164, 070,000	58, 270,000		105, 800,000	

令和元年6月13日提出

富山市長 森 雅 志

報告第 10 号

平成 30 年度富山市繰越明許費繰越計算書

款	項	事業名	金額	翌年度繰越額	左の財源内訳				
					既収入 特定財源	未収入 国(県)支 出金	特定財源 地方債	その他	一般財源
			円	円	円	円	円	円	円
10 教育費	1 教 育 費	学校保健事務費	341,000	340,200					340,200
	2 小学校費	学校施設整備 事業費	19,200,000	19,200,000					19,200,000
		学校プール建設 事業費	121,217,000	120,960,000			79,600,000		41,360,000
		校舎改築事業費	300,167,000	300,167,000		78,442,000	194,500,000		27,225,000
		空調整備事業費	470,413,000	470,413,000		406,625,000	063,700,000		88,000
		校舎改築事業費	250,000,000	250,000,000		75,900,000	149,500,000		24,600,000
	3 中学校費	空調整備事業費	648,849,000	648,849,000		157,678,000	403,500,000		87,671,000

令和元年 6 月 13 日提出

富山市長 森 雅 志

報告第 2 1 号

経営状況報告の件

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 243 条の 3 第 2 項の規定により、公益財団法人富山市学校給食会に関する経営状況を別紙のとおり報告する。

令和元年 6 月 13 日提出

富山市長 森 雅 志

1 令和元年度事業計画

(1) 給食予定数

学校給食実施のため、給食用物資の調達及び配送を行う。

幼稚園	7園	41,994食
認定こども園	1園	47,179食
小学校	65校	3,974,807食
中学校	26校	2,075,674食
計	99校(園)	6,139,654食

2 令和元年度予算		(単位 円)	
科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
(1) 經常収益			
① 基本財産運用益	2,499	2,499	0
② 特定資産運用益	2,921	3,669	△748
③ 事業収益	1,791,951,000	1,846,412,000	△54,461,000
④ 受取補助金	41,713,000	39,536,000	2,177,000
⑤ 雑収益	241,000	287,813	△46,813
經常収益計	1,833,910,420	1,886,241,981	△52,331,561
(2) 經常費用			
① 事業費	1,820,544,406	1,873,046,815	△52,502,409
② 管理費	13,366,014	13,195,166	170,848
經常費用計	1,833,910,420	1,886,241,981	△52,331,561
当期經常増減額	0	0	0
經常外増減の部			
(1) 經常外費用			
① 固定資産除却損	0	2	△2
經常外費用計	0	2	△2
当期經常外増減額	0	△2	2
当期一般正味財産増減額	0	△2	2
一般正味財産期首残高	3,820,715	3,820,717	△2
一般正味財産期末残高	3,820,715	3,820,715	0
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	2,499	2,499	0
② 特定資産運用益	1,594	3,688	△2,094
③ 一般正味財産への振替額	△2,499	△2,499	0
当期指定正味財産増減額	1,594	3,688	△2,094
指定正味財産期首残高	25,946,755	25,943,067	3,688
指定正味財産期末残高	25,948,349	25,946,755	1,594
III 正味財産期末残高	29,769,064	29,767,470	1,594

3 平成30年度決算（自平成30年4月1日 至平成31年3月31日）

(1) 財産目録（平成31年3月31日現在）（単位 円）

区分	科 目	金 額	摘 要
資産の部	1 流動資産	113,794,312	現金・預金 113,793,544 未収金 768
	2 固定資産	56,009,101	基本財産 10,000,000 特定資産 45,483,166 その他固定資産 525,935
	計	169,803,413	
負債の部	1 流動負債	112,248,972	未払金 93,998,057 預り金 16,267,824 賞与引当金 1,983,091
	2 固定負債	28,054,678	退職給付引当金
	計	140,303,650	
	正味財産	29,499,763	

(2) 貸借対照表 (平成31年3月31日現在)

(単位 円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
区分	科 目	金 額	区分	科 目	金 額
流動資産	1 現金・預金	113,793,544	流動負債	1 未払金	93,998,057
	2 未収金	768		2 預り金	16,267,824
				3 賞与引当金	1,983,091
			計	112,248,972	
	計	113,794,312	負債	退職給付引当金	28,054,678
		負債定	計	28,054,678	
固定資産	1 基本財産	10,000,000	負債合計		140,303,650
	2 特定資産	45,483,166	正味財産の部		
	3 その他固定資産	525,935	区分	科 目	金 額
			正味財産	1 指定正味財産 (うち基本財産への充当額)	25,947,330 (10,000,000)
				(うち特定資産への充当額)	(15,947,330)
				2 一般正味財産 (うち特定資産への充当額)	3,552,433 (1,481,158)
				計	29,499,763
計	56,009,101	正味財産合計		29,499,763	
資産合計		169,803,413	負債・正味財産合計		169,803,413

(3) 正味財産増減計算書 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	2,499	2,499	0
② 特定資産運用益	3,669	5,248	△1,579
③ 事業収益	1,750,500,431	1,864,078,679	△113,578,248
④ 受取補助金	38,308,833	38,567,363	△258,530
⑤ 雑収益	239,373	255,364	△15,991
経常収益計	1,789,054,805	1,902,909,153	△113,854,348
(2) 経常費用			
① 事業費	1,776,091,100	1,889,774,797	△113,683,697
② 管理費	12,537,982	13,138,041	△600,059
経常費用計	1,788,629,082	1,902,912,838	△114,283,756
当期経常増減額	425,723	△3,685	429,408
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外費用			
① 固定資産除却損	2	1	1
経常外費用計	2	1	1
当期経常外増減額	△2	△1	△1
当期一般正味財産増減額	425,721	△3,686	429,407
一般正味財産期首残高	3,126,712	3,130,398	△3,686
一般正味財産期末残高	3,552,433	3,126,712	425,721
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	2,499	2,499	0
② 特定資産運用益	3,688	3,687	1
③ 一般正味財産への振替額	△2,499	△2,499	0
当期指定正味財産増減額	3,688	3,687	1
指定正味財産期首残高	25,943,642	25,939,955	3,687
指定正味財産期末残高	25,947,330	25,943,642	3,688
III 正味財産期末残高	29,499,763	29,070,354	429,409

4 平成30年度事業報告

(1) 給食実施校（園）

幼稚園	8 園
認定こども園	1 園
小学校	65 校
中学校	26 校
計	100 校（園）

(2) 事業実績

	食 数	対前年度比
幼稚園	46,911 食	82.4%
認定こども園	48,300 食	99.4%
小学校	4,103,272 食	98.3%
中学校	2,109,482 食	99.0%
計	6,307,965 食	98.4%

「令和元年度富山市中学校 1 年生学力調査」
結果の概要について

富山市教育委員会

「令和元年度富山市中学校1年生学力調査」結果の概要について

I 本調査の目的

- ・各中学校が、1学年生徒の入学時の学力定着状況を把握し、今後の学力向上に向けた学習指導に生かす。
- ・生徒一人一人が自分の努力すべき課題に向かって、意欲的に学習に取り組む。
- ・各小学校は、卒業生の調査結果を踏まえ、学習指導の改善・充実を図る。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成31年4月10日(水)、11日(木)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科
- 3 実施学校数・生徒数

実施学校数	生徒数	
27校 1分校 (附属中を含む)	在籍数	3,575人
	受検者数	3,498人 (4教科全てを受検した生徒数)

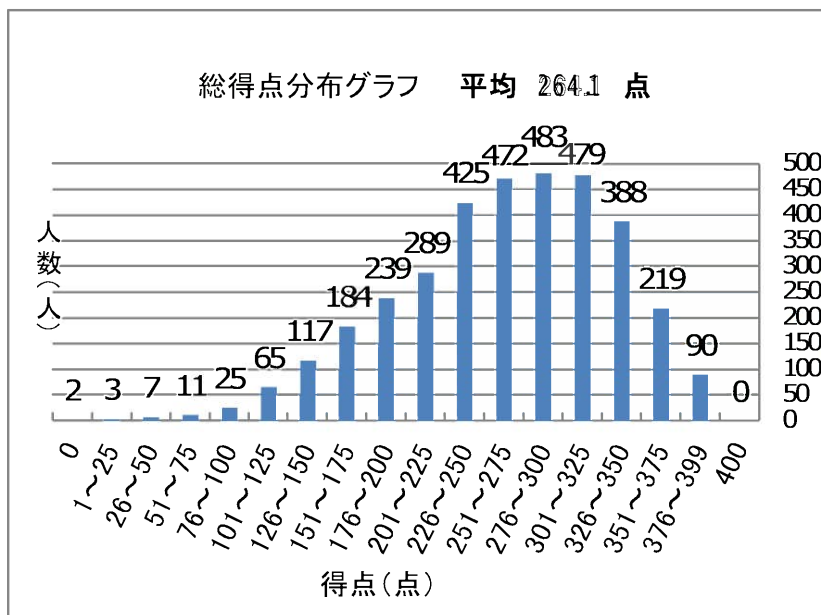
III 結果の概況(小数第2位で四捨五入してあるため、計が100%にならない場合がある。)

1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	4教科
62.8点	67.0点	57.5点	76.5点	264.1点

2 総得点分布表・グラフ

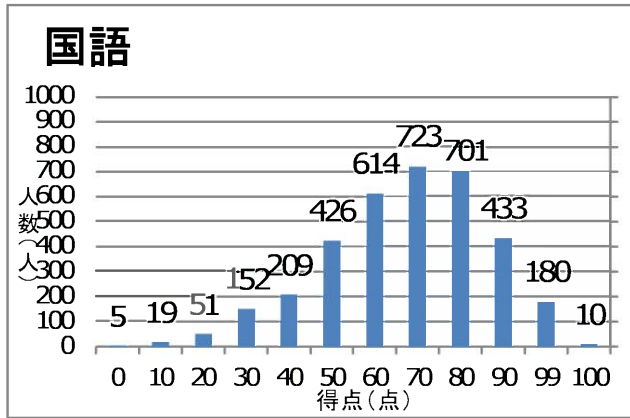
得点範囲	度数	%
400	0	0.0%
376~399	90	2.6%
351~375	219	6.3%
326~350	388	11.1%
301~325	479	13.7%
276~300	483	13.8%
251~275	472	13.5%
226~250	425	12.1%
201~225	289	8.3%
176~200	239	6.8%
151~175	184	5.3%
126~150	117	3.3%
101~125	65	1.9%
76~100	25	0.7%
51~75	11	0.3%
26~50	7	0.2%
1~25	3	0.1%
0	2	0.1%
計	3498	100.0%



3 教科別得点分布表・グラフ

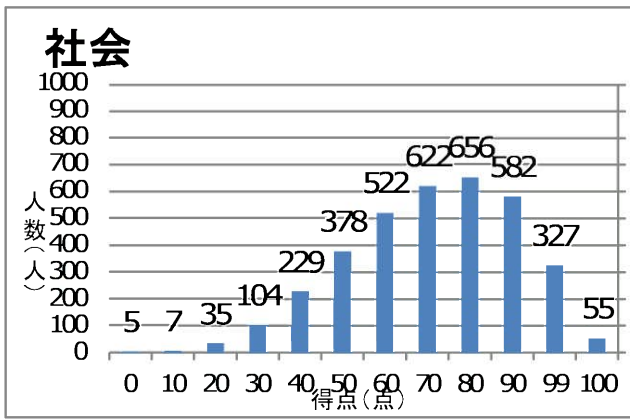
国語

得点範囲	度数	%
100	10	0.3%
91~99	180	5.1%
81~90	433	12.3%
71~80	701	19.9%
61~70	723	20.5%
51~60	614	17.4%
41~50	426	12.1%
31~40	209	5.9%
21~30	152	4.3%
11~20	51	1.4%
1~10	19	0.5%
0	5	0.1%
計	3523	100.0%



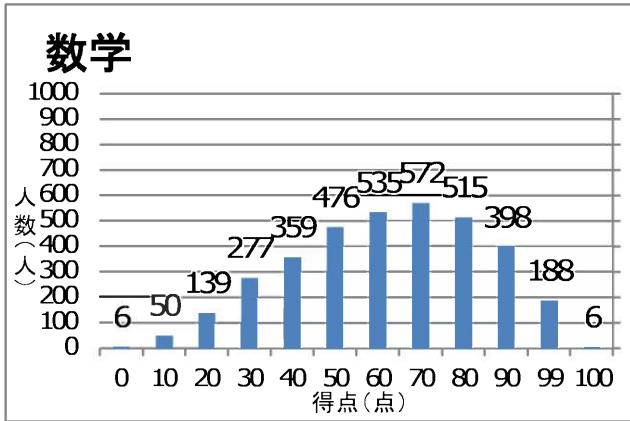
社会

得点範囲	度数	%
100	55	1.6%
91~99	327	9.3%
81~90	582	16.5%
71~80	656	18.6%
61~70	622	17.7%
51~60	522	14.8%
41~50	378	10.7%
31~40	229	6.5%
21~30	104	3.0%
11~20	35	1.0%
1~10	7	0.2%
0	5	0.1%
計	3522	100.0%



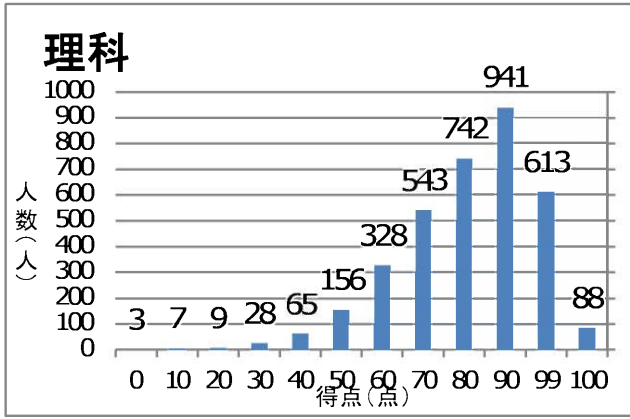
数学

得点範囲	度数	%
100	6	0.2%
91~99	188	5.3%
81~90	398	11.3%
71~80	515	14.6%
61~70	572	16.2%
51~60	535	15.2%
41~50	476	13.5%
31~40	359	10.2%
21~30	277	7.9%
11~20	139	3.9%
1~10	50	1.4%
0	6	0.2%
計	3521	100.0%



理科

得点範囲	度数	%
100	88	2.5%
91~99	613	17.4%
81~90	941	26.7%
71~80	742	21.1%
61~70	543	15.4%
51~60	328	9.3%
41~50	156	4.4%
31~40	65	1.8%
21~30	28	0.8%
11~20	9	0.3%
1~10	7	0.2%
0	3	0.1%
計	3523	100.0%



IV 結果の概要

1 抽出調査について

27中学校の各学級8人（男子4名、女子4名）をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番までを抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各クラスから8人の抽出を行うものとした。

2 抽出生徒数

学校数 学級数 抽出生徒数 27校 103学級 824人(附属中含む)

V 各教科の概要

1 教科の考察

(1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

(2) 正答率の高い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

(3) 読解力と正答率の関連

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

2 今後の指導

1の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

VI 読解力の視点からの考察

1 読解力

読解力とは、一般的には、例えば主語と述語の関係や、「それ」などの指示語が何を指しているのかなど、文章で表された情報を的確に理解する力である。

また、「PISA型読解力」は、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図など様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、熟考する力であるとされている。

2 読解力の視点からみえる課題

今回の国語の調査では、文中の「主語」として適切なものを選択する問題を3問出題したが、問題別の正答率は次の通りであった。

(1)しとしと／降り続いた／雨が／やんだ。 → (主語：「雨が」) 【正答率87.3%】

(2)わたしの／好きな／食べ物は／カレーライスだ。

→ (主語：「食べ物は」) 【正答率45.4%】

(3)これは、／去年の／夏休みに／ぼくが／描いた／絵だ。

→ (主語：「これは」) 【正答率28.3%】

この結果から、(1)と比較して(2)と(3)の正答率が低い。(2)は「わたし」という語に着目し、「の」を見落として主語と考えた可能性がある。(3)は、文中に修飾部がある複文のため、述語の「絵だ」に近い「ぼくが」という語に着目して選んだ可能性がある。

主語・述語で成り立つ文には、「何（誰）がどうした」という基本的な構造があり、そこに修飾語・修飾部が加わり、文は複雑になっていく。各教科の教科書を正しく読んだり、資料を読み取ったりして内容を理解するためには、こうした複雑な文を正確に理解する力が基盤となるため、今後も意識して指導にあたる必要がある。

3 読解力の向上に向けた今後の指導

・言語能力を支える語彙力の強化

国語で最も正答率が低かった問題は、「結果」の反対の意味をもつ熟語を問うもの（正答：「原因」）で、正答率は、13.3%であった。新学習指導要領でも、「言葉は生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである」と説明されている。特に言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きい。今後も、語彙指導を丁寧に行い、読書活動の充実を図るなど、発達の段階に応じた計画的な言語能力の育成が必要である。

・情報活用に関する指導の充実

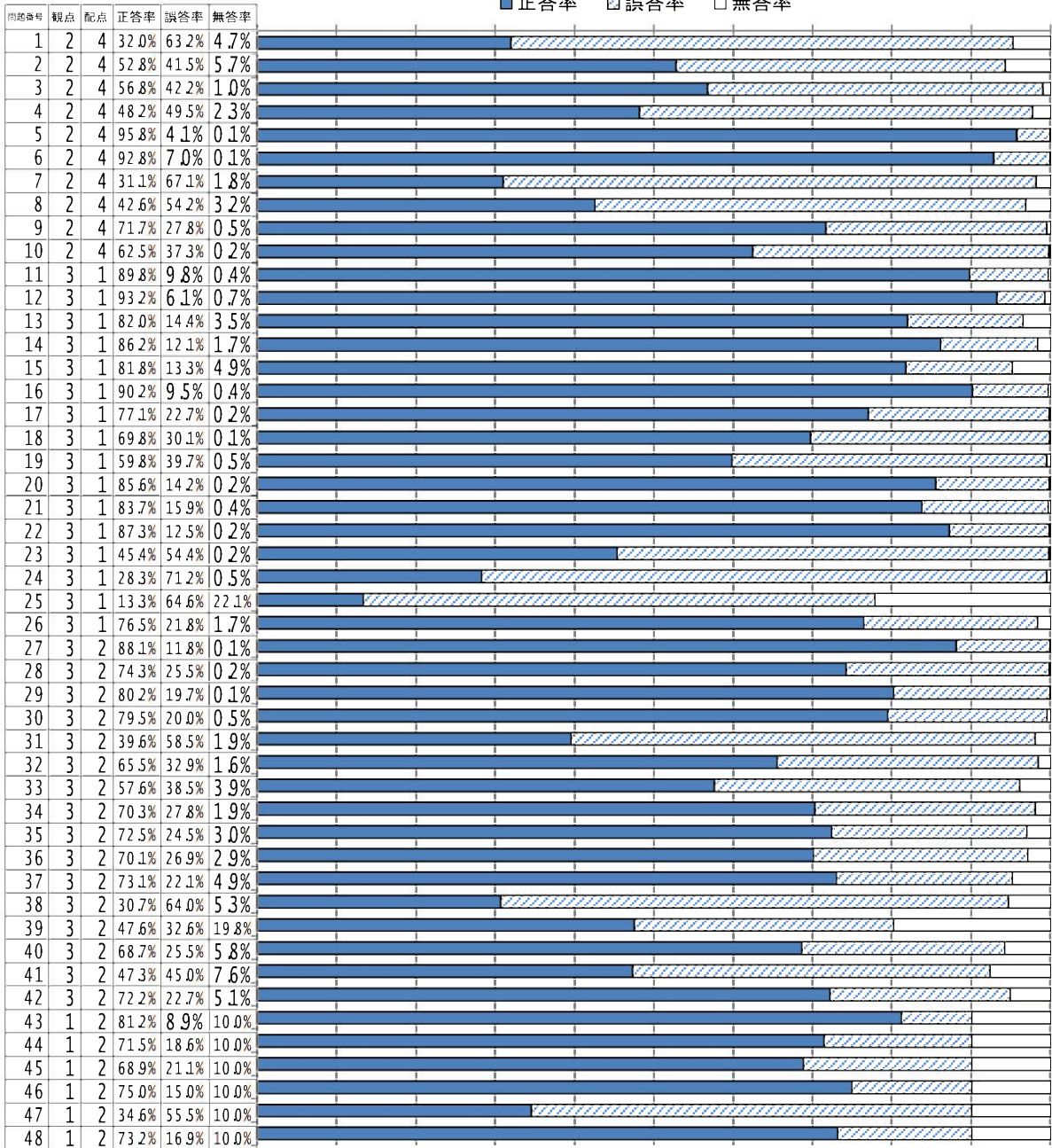
各教科の特質に応じたPISA型読解力を身につけるためには、例えばグラフの軸の1目盛りがどれだけの大きさなのかに着目するなどグラフの見方等の基本的な知識・技能を身につけるようにする。また、富山市学校教育指導方針の「自らの考えをもつ」解説にもあるように、比較や分類など情報を整理する方法や分かったことを表現する方法など考えをもつための過程をきめ細かく指導していく必要がある。

Ⅶ 抽出生徒から分析する各教科の概要

(小数第2位で四捨五入してあるため、正答率、誤答率、無答率の合計が100%にならない場合がある。)

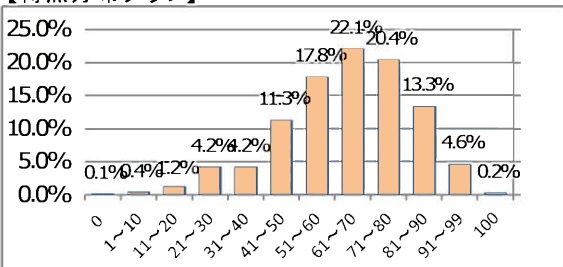
国語 抽出生徒数 824人 抽出平均 63.8点

【設問別正答率表・グラフ】

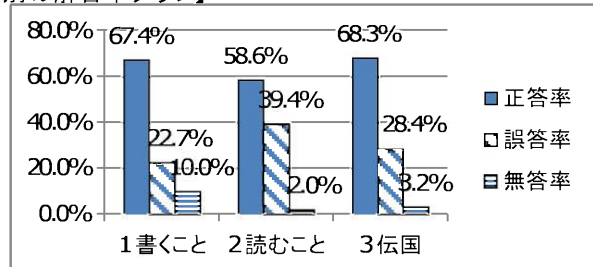


0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 国語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 63.8 点であり、昨年度より約 10 点低くなっている。「書くこと」の平均正答率 67.4% 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率 68.3% に対し、「読むこと」の観点は、平均正答率が 58.6% と約 10% 低い。また、「書くこと」の無答率が 10.0% と高い傾向が見られる。

(2) 正答率の高い問題について

「読むこと」では、登場人物の心情を表した文として適切なものを選択する設問や、文意が通るように空欄に入る適切な単語を選択する問題において正答率が高い。(通し番号 5、6)

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、日常よく使用する漢字の読みを答える問題において正答率が高い。(通し番号 11、12、16)

「書くこと」では、指定された内容に従って二段落構成で文章を書く問題において正答率が高い。(通し番号 43)

これらのことから、物語文の学習において叙述を根拠にしながら登場人物の心情を考える活動を繰り返し行なったことで、文章の大意をとらえる力が身についてきていると考えられる。また、日常よく使用する漢字を正しく読む力も身についてきていると考えられる。

(3) 読解力と正答率の関連について

通し番号 4 は、「それ」が指す部分をとらえた上で、指定された文型に適切に合うように言葉を整理し直して書き換える問題であり、読解力を要する。(正答率 48.2%) 「それ」が直前の文の後半部分を指すことはとらえられても、指定の文末に続くように適切な文に書き換えられていないなどの誤答が多かった。このことから、語句を整理し、目的に合った筋道の通った文(文章)を書くことに課題があると考えられる。

今回の新学習指導要領の改訂により新設された「情報の取り扱い方に関する事項」には、これからの社会において、話や文章から目的に応じて必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を整理したり、発信したい情報をさまざまな手段で表現することの重要性が指摘されている。今後は、「話す・聞く」「書く」「読む」全ての領域の学習において、情報を正しくとらえたり整理したりする力を高めるための、具体的できめ細かい指導が必要である。

(通し番号 4)

[一]

《問題文より抜粋》

みんながつつついたり引っかき回したりするので、深みの水はにごってはいたが、あのあざやかなしゅ色なら、これくらいのにごりでも見えるはずではないか。①**ぼくもそれが不思議だった。**

3 ①**ぼくもそれが不思議だった。**とありますが、不思議と感じた「それ」の内容を、「ぼくも」に続くように書きましょう。

ぼくも

が不思議だった。

2 今後の授業に向けて

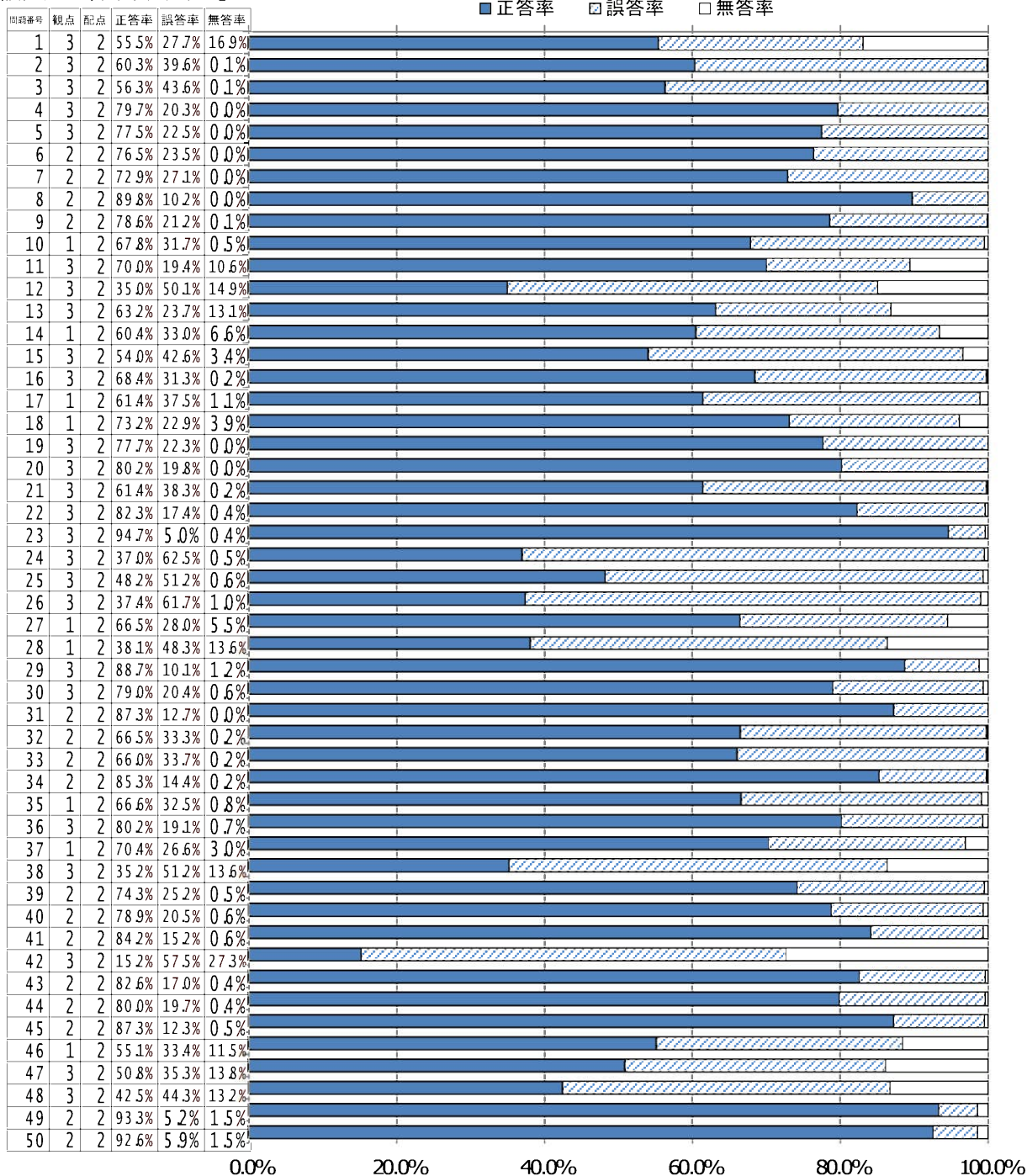
- (1) 「読むこと」の能力を育成するためには、段落ごとの要旨をとらえる、文と文、段落と段落のつながりを意識しながら読む、指示語や接続詞から文章展開を予想する、筆者が繰り返し用いる語句等から全体の要旨をとらえるなど、文章を読み解く視点を明確にして指導することが大切である。
- (2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、語彙力を高めることを重視し、言葉を辞書で調べることを習慣化する、指定の語句を用いた短文づくりをし、互いに読み合うなどの活動が有効である。さらに、慣用語、故事成語等を用いて言い換える、正しく敬語を使う、類義語、対義語等を意識して使うなど、様々な言葉にふれる機会をもつようにし、日常での使用につないでいく。
- (3) 「書くこと」の能力を育成するために、文を推敲する活動を大切にする。その際、ペアやグループで読み合い、筋道の通った文章であるか、正しく語句を使っているか、段落の関係は適切であるかなど、具体的な視点を持ち、書き手と読み手それぞれの立場から検討し合う学習活動が有効である。

社会

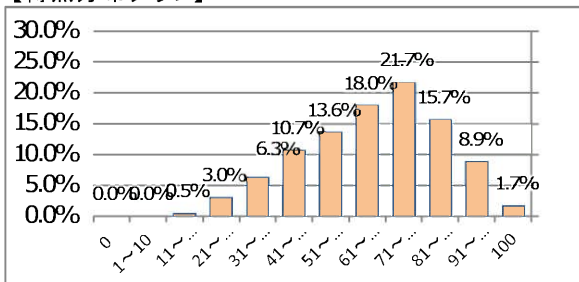
抽出生徒数 824人

抽出平均 67.7点

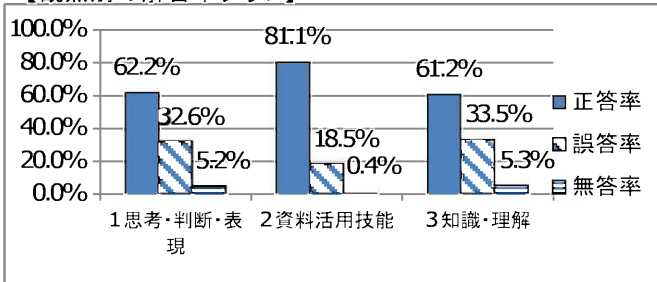
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 社会科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 67.7 点であり、観点別では、「思考・判断・表現」の正答率が 62.2% (昨年 57.9%) と昨年より高くなり、無答率は、5.2% (昨年 9.9%) と低くなった。また、「知識・理解」の正答率は 61.2% (昨年 65.0%) と低下し、無答率も 5.3% (昨年 6.5%) とやや低下した。

(2) 正答率の高い問題について

歴史分野では、各時代を特徴づける歴史的事象や活躍した人物についての基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率は 85% を超えている。(通し番号 23、29、31、34)

また、グラフから情報を読み取る問題 (通し番号 8、49、50) では正答率が 90% 前後であり、資料を活用する問題 (通し番号 31、34、45) では、正答率が 85% を超えていた。基礎的資料から事実を正確に読み取る力は定着している。

(3) 読解力と正答率の関連について

帯グラフの数字を読み取って正誤を答える問題 (通し番号 8) の正答率は、89.9% と高かった。しかし、工業種類別の生産額の割合を比較する問題 (通し番号 6)、総生産額の増加を期間で比較する問題 (通し番号 7)、3つのグラフが示す内容を比較する問題 (通し番号 9) の正答率は、同様に正誤で答える問題であるにもかかわらず、72.9%~78.6% を示した。このことから、一つの資料を複数の視点で読み取って比較したり考察したりする経験を積む必要があると考える。

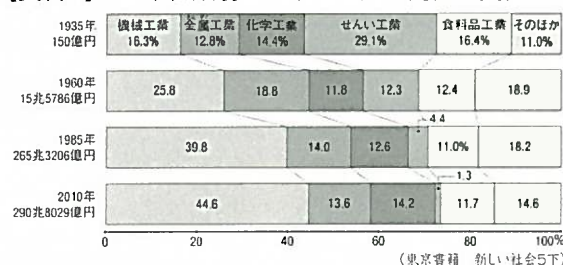
(通し番号 6、7、8、9)

〔2〕 日本の工業について、あとの問いに答えましょう。

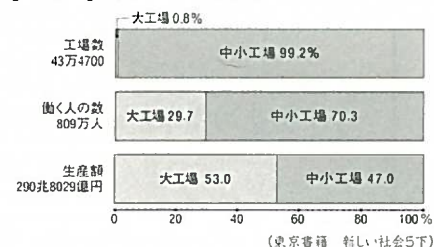
下の【資料1・2】を見て、正しいものには○を、間違っているものには×を書きましょう。

- ① どの年代においても、機械工業の生産額の割合が最も多い。
- ② 工業生産額が最も増えた期間は、1960年から1985年にかけてである。
- ③ 中小工場の数は、総工場数の9割以上を占めている。
- ④ 大工場は、工場数と働く人の数、生産額のいずれも中小工場より少ない。

【資料1】 工業種類別の工業生産額の割合の変化



【資料2】 大工場と中小工場の割合



2 今後の授業に向けて

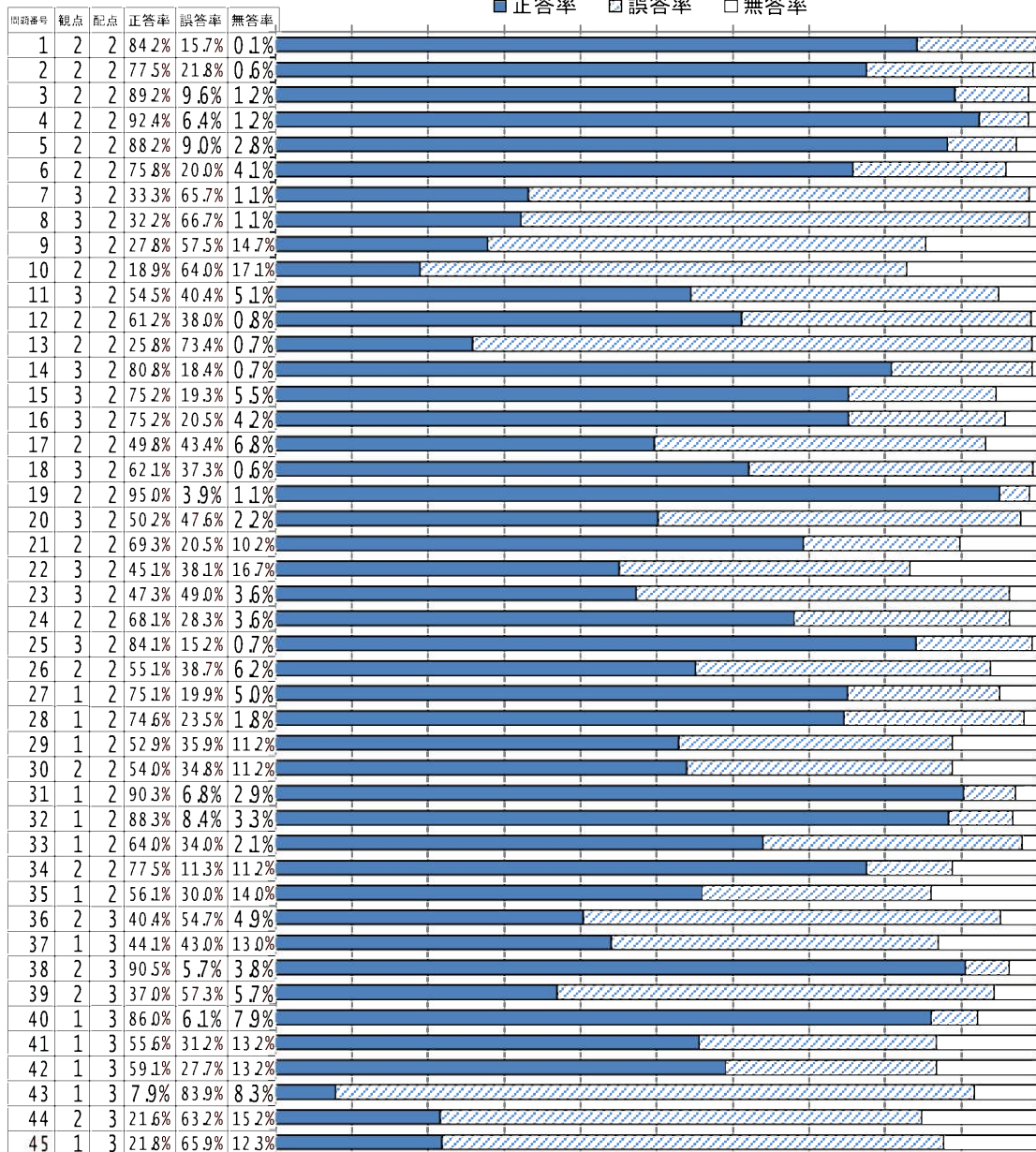
- (1) 基礎的・基本的な知識を身につけるためには、語句を覚えるだけではなく、その語句が表す社会的事象の意味やイメージを子どもなりにもち、自分の言葉で説明できるようにすることが大切である。そのために、ニュースや新聞記事を取り上げ、身近な出来事と関連付けて理解を促したり、そこから考えたことをノートに書く活動を取り入れるなど、学習活動を工夫して定着を図る。
- (2) 歴史的事象が起きた時代背景、為政者の願いと政策、民衆の思い等を、分析的、論理的に考えることができるような学習課題を工夫する。その上で、課題を解決するために必要な情報を収集し、図や表を使って情報を整理し、根拠や理由を明確にして自分の考えを表現する活動を取り入れる。
- (3) 資料を読み取る学習では、子ども同士が多様な視点からの意見を聞き合う場をもち、指導者は子どもたちがどのような視点でどのような情報を読み取ったかを整理する。特に、資料を構成する要素である表題、項目、軸、割合、数字、単位等を丁寧に押さえる。また、「○年から○年にかけて」「どの年代においても」「いずれも少ない(多い)」等の言葉を用いて資料を読み取る活動を取り入れ、期間を区切ったり、比較したりして情報を読み取る力をはぐくむ。

数学

抽出生徒数 824人

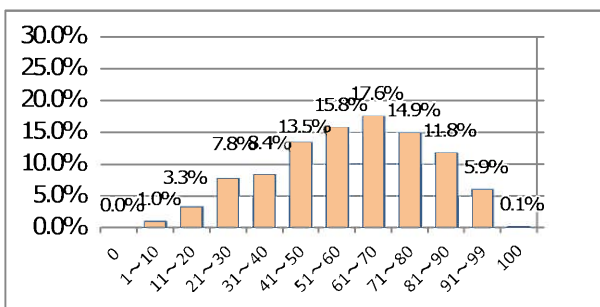
抽出平均 59.0点

【設問別正答率表・グラフ】

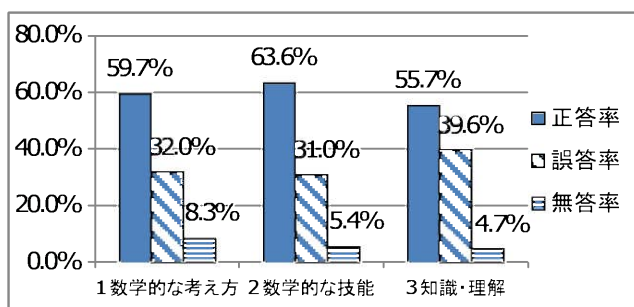


0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 数学科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 59.0 点であり、昨年度より 7.6 点低くなっている。観点別では、「数学的な技能」の正答率が 63.6%（昨年度 72.8%）、「数量や図形などについての知識や理解」の正答率が 55.7%（昨年度 67.1%）と昨年度よりかなり低い。「数学的な見方や考え方」の正答率は 59.7%（昨年度 60.4%）にとどまり、無答率も 8.3%と、他の観点に比べて高かった。

(2) 正答率の高い問題について

速さと道のりから時間を求める問題（通し番号 19）、単位量当たりの大きさの考えを用いて比べ方を考える問題（通し番号 31）では、正答率が 90%を超えている。また、正答率が 85%以上の問題 8 問中 5 問が「数学的な技能」の問題であり、基礎的な計算技能は定着していると考えられる。

(3) 読解力と正答率の関連について

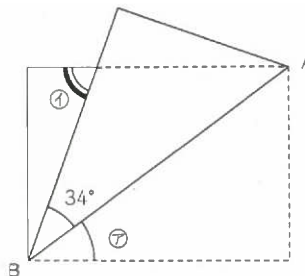
① 図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、角の大きさを求める問題（通し番号 10）では、正答率が 18.9%と全問題中最も低く、無答率は 17.1%と最も高かった。まず、㉞の角度を求める問題（通し番号 9）の正答率が 27.8%で、無答率は 14.7%であることから、紙を折り曲げてできた三角形と補助線で表された直角三角形が合同であることを読み取ることができない生徒が多かったと考えられる。㉞は、求めた㉞の角度、長方形の 4 つの角は全て直角であること、三角形の内角の和が 180 度であることを使って求める必要がある。問題文と図から必要な情報を読み取り、図形の性質と関連付けて考える力を育む必要がある。

② 平均から全体量を計算で求めたり、

その活用方法を考えたりする問題（通し番号 35）では正答率が 56.1%、無答率が 14.0%であった。1～8 回の漢字テストの平均を求めるためには、通し番号 34（正答率 77.5%、無答率 11.2%）で求めた 6 回のテストの合計点を活用する必要がある。問題文の意味を正確に理解するとともに、与えられた情報を整理・分析し、筋道を立てて考える力に課題が見られる。

①(通し番号9、10)

[3] 長方形の紙を対角線 AB で折り曲げると、下の図のようになりました。㉞、㉞の角度は何度ですか。計算で求めましょう。



②(通し番号34、35)

[13] けんたさんは 10 点満点の漢字テストを 6 回受けて、平均点が 8 点でした。

(1) けんたさんの 6 回のテストの合計点数を求めましょう。

(2) けんたさんは、7 回目と 8 回目は 10 点をとりました。1～8 回のテストの平均点を求めましょう。

2 今後の授業に向けて

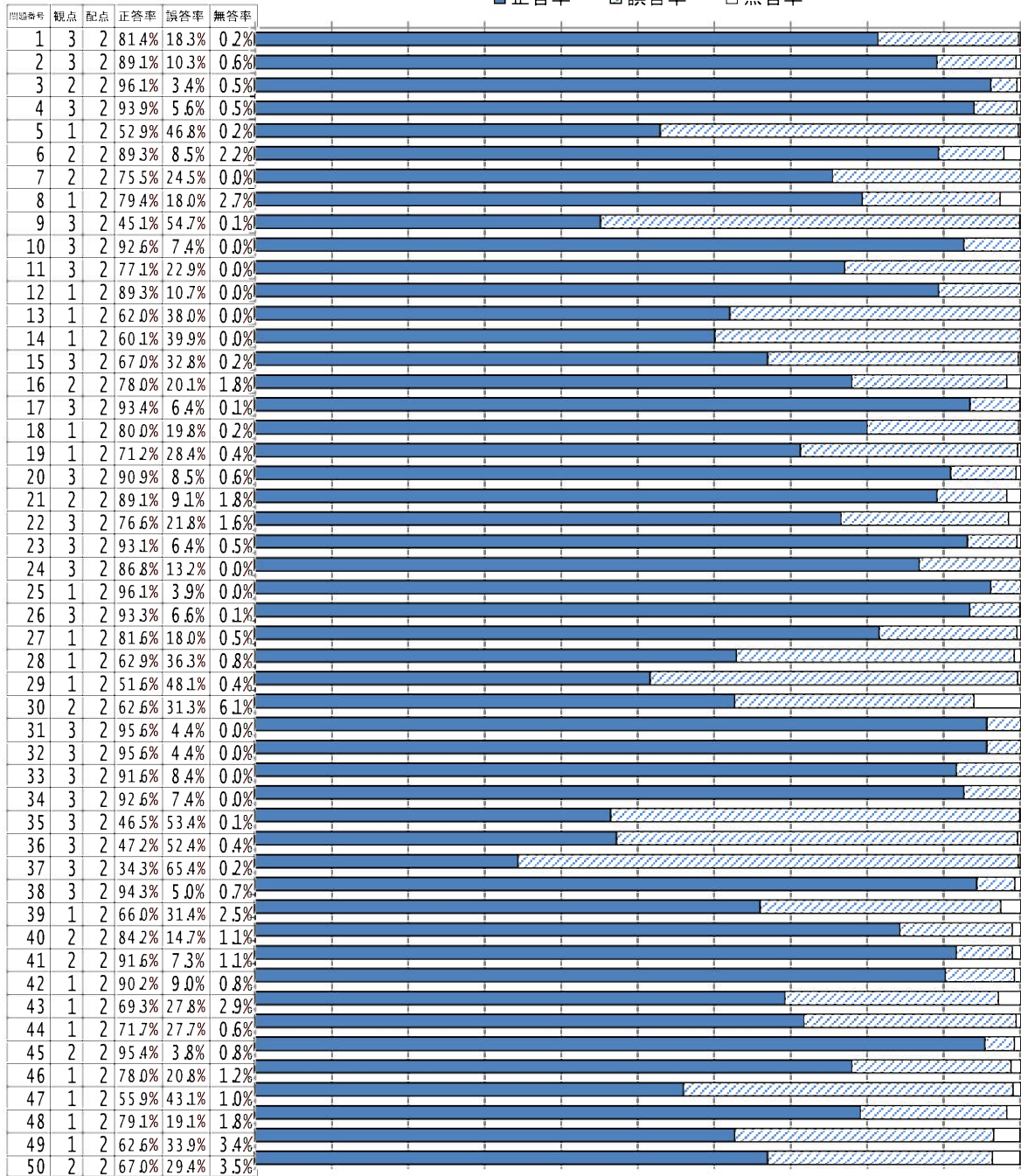
- (1) 問題文から分かることを表にまとめたり図に書き加えたりしながら、情報を整理・分析し、図や記号、式を用いて、自分の考えを簡潔・明瞭に表現したり相手に伝えたりする活動を継続して行う。
- (2) 図形の学習では、作図や具体物の観察、操作等、作業的、体験的な活動を取り入れることで、実感的に図形の性質を理解できるようにする。また、角の大きさや辺の長さを計算で求める問題の場合などは、図形の性質と式を関連づけて説明するなど、根拠を明確にしながらか論理的に考察するよう指導することが大切である。
- (3) 算数で用いる基本的な用語や簡単な図形の計算処理の方法などを、確実に定着できるようにするとともに、更に基礎的・基本的な知識や技能を活用して、発展的・応用的に考える学習を取り入れることが重要である。

理科

抽出生徒数 824人

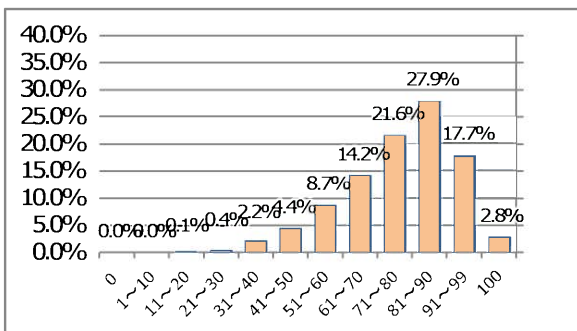
抽出平均 77.3点

【設問別正答率表・グラフ】

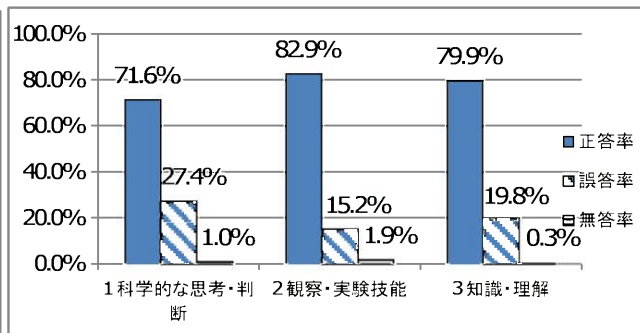


0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 理科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は77.3点であり、観点別でみると、「自然事象についての知識・理解」の正答率が79.9%、「科学的な思考・判断」は71.6%、「観察・実験の技能」は82.9%と、どの観点においても7割以上の正答率であった。グラフや回路図を読み取る問題（通し番号29、35～37）の正答率が低く、今後の課題である。

(2) 正答率の高い問題について

燃焼による気体の変化、電気の利用の問題は90%以上の正答率である。（通し番号4、31～34）この他、知識・理解を問う21問のうち、11問が90%以上の正答率であり、知識・理解の確かな定着が見られる。

また、観察・実験の技能を問う、石灰水の反応、てこのつり合い、気体のにおいの調べ方の問題も90%以上の正答率である。（通し番号3、41、45）実験・観察を正しく行い、体験を通して理解を深めている成果が表れていると考えられる。

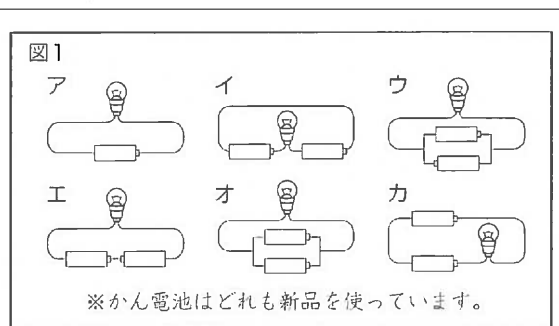
(3) 読解力と正答率との関連について

豆電球と乾電池で構成される複数の回路図について、最も明るいもの（正答率46.5%）、最も長い時間明かりがつくもの（正答率47.2%）、明かりがつかないもの（正答率34.3%）を答える問題の正答率が低い。（通し番号35、36、37）明かりがつかないものを「すべて選んで」答える問題は、全ての選択肢の回路についての正しい理解と、回路を単純化して読み解く力が必要である。「豆電球がつく回路」を暗記するだけでは、様々な形の回路図を正しく読み解くことはできない。回路図を単純化するためには、不要な情報は何かを的確に判断し、必要な情報を取り出し、つなぎ方を変えずに豆電球や乾電池の位置を移動するという思考が必要になる。

（通し番号37）

(2) 豆電球とかん電池をつなぎ、明かりをつけました。

③ 右の図1のア～カの回路の中で、明かりがつかないものはどれですか。すべて選んで、記号で答えましょう。



2 今後の授業に向けて

(1) 結果の処理をする際に、グラフにまとめたり、図で表現したりすることで、科学的な思考力・表現力を高めることができる。グラフにまとめるためには、「何と何を比較するためのグラフなのか（比較）」「何を調べてみたのか（条件制御）」等、理科の「考え方」を活用することが求められる。また、図で表現するためには、自然現象から必要な事象を抽出して考えることが求められる。グラフにまとめたり、図で表現したりする機会を発達段階に応じて意図的に設定し、経験を積み重ねていくことが大切である。

(2) 知識を身につけるためには、用語の暗記ではなく、現象の理解が必要である。そのため、授業では、子どもが用語を答えることだけにとどまらず、その内容や意味を説明させる機会を多く取り入れることが大切である。またその際に、言葉での表現だけでなく、モデル図等を用いることで、現象が正しく理解されているかを確認していくなど、子どもの理解を適宜把握していく必要がある。